

## 令和7年12月こあみ句会定例作品

火恋し家路へ長き影法師	鈴木るる先生
かさこそと枯葉の走る歩道かな	村上 和之
里神楽高千穂峡に星高く	湯澤 安矢子
迎へ待つ園児の大声冬夕焼	佐原 敦子
極月や撫ぜまはされるおびんずる	植田 好男
年の瀬やエスカレーターもどかしく	小泉 良子
菊盛りデフリンピック無事終る	福澤 利夫
砂むし風呂冷たい風が顔撫でる	衛藤 伊久代
スキップで帰る子の路地寒茜	菅野 裕夫
異国語も行き交ふ客船冬うらら	吉村 希世子
大根の酸ひも甘きも吸ひ尽くし	村谷 卓一
友が逝き有為転変の年暮るる	醤油 和男
骨董市夜神楽面の猥奇失す	湯沢 あきこ

以 上